■フコク

クイックバキュームリフト「バキュコンボQS-650」

バッテリーに充電するように真空圧を強力チャージでき、1回のチャージで数回から数十回使用できる。見た目のかわいらしさに似合わず、吊り上げ重量は最大650kgとヘビー級。パッド径は480㎜。ポンプ内メンテナンスフリー。

■日本オートマチックマシン

サーボプレスユニット「SBU100S-100」

スクリュー方式のサーボプレス。通常およびプロファイルからの選択で、金型またはワークの加工条件に合わせたプレス動作が行える。プレス動作は最大100パターン記憶でき、適宜パターンで加工可。最大圧力10kN、ストローク長100㎜（位置設定単位0.001㎜）。

■オーエスジー

刃先交換式工具「フェニックスシリーズ」

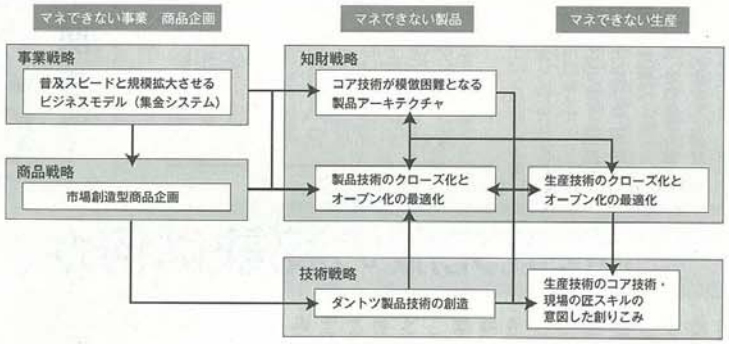
シリーズ第1弾として粗取り加工に特化したラインナップは、丸駒、高送りラジアス、高能率ラジアス、ドリル、肩削りの5種類。交換式チップの特性を活かし、切削負荷の軽減やスムーズな切りくず排出を図った。刃先の先端角形状で加工範囲を広げたドリル（写真）は、異素材の重ね板を楽に穴あけできる能力をもっている。

■牧野フライス精機

中小径工具向け研削盤「AGE30型」

小～中径（φ3－20㎜）の刃物を対象とした高精密のCNC機。自動ワーク交換装置や砥石・研削液ノズル自動交換装置（最大6セットの砥石を搭載可能）を標準装備し、長時間の連続運転にも対応。加工プログラムは3Dシミュレーションで事前確認できる。

マネできないものづくり戦略の構造（戦略網の構築）



特別寄稿

株式会社　日本能率協会コンサルティング

マネージャー　チーフコンサルタント　石田　秀夫

マネできないものづくり戦略

再び輝く、日本の「ものづくり」とするために

日々スピード増す、第3国の技術キャッチアップ

日本のものづくりは、国内市場が成熟し、市場・生産拠点を海外にシフトしてきた。これにより、BRICs諸国はものづくりのノウハウを高め、モジュール化・デジタル化なども相まって垂直分業が進み、ものづくりの技術面・管理面について、キャッチアップする速度を速めてきた。これらは、工作機械などの日本製マザーマシン使用・高技能者の海外指導などにより、加速していることも事実である。よって、多くの製品はBRICs諸国において一定の品質レベルで生産可能である。

また、国により設計の海外シフトも増えており、日本の総合的なものづくりは競争力を低下させ、低利益状況に陥っていると言える。

日本のものづくりが儲からない　変わる商売の競争軸

戦略的な側面からみると、日本のものづくりは日本的経営の中で経営戦略上の「選択と集中」が進みにくいことや、事業／商品面でも新たなビジネスモデルの出現に押され「儲からないものづくり企業」が多いとコンサルティングの現場で実感する。悔しさとしては、技術面では勝っているのに商売で儲からないことである。これまで技術的な競争力（スペック、工法）を極めれば商売となっていたが、昨今、その競争軸は変わりつつある。

例えば、米国勢を中心に、「ゲームのルールを変える」市場創造型商品創出（例：iPod／iTunes他）が進められ、日本はその後塵を拝している。今後、顧客のライフタイムバリューを訴求し、商品ライフサイクル全体で儲けるしくみを考えていく戦略が必要と考える。

日本的「マネできないものづくり戦略」を日本の良いところを活かし

これまで日本のものづくりは、決められた市場や商品領域において技術などを極めることを得意としてきたが、戦略性は高いと言えず十分な利益創出をできていない。今後、「マネできないものづくり」を志向し、戦略構築に注力すべきである。

それには各領域の個別戦略をバラバラに立案するのではなく、各戦略領域を連結化して戦略網を構築し、強い戦略を創造することで競争力を高めることができる。（図参照）

◎**事業戦略**：商品販売のみのイニシャル期の競争だけでなく、商品販売後も収益を得られるビジネスモデルを創りだす事業企画が必要である。

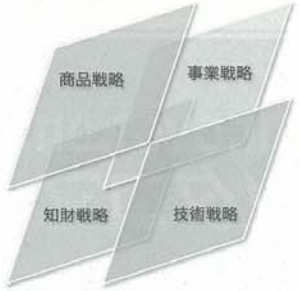
◎**商品戦略（市場創造戦略）**：商品として既存の競争要素に加え、顧客を感動させる新たな競争要素を創りだし、市場を創造することが必要である。

◎**知的財産戦略**：知財戦略を特許だけと捉えるのではなく、競合のキャッチアップを遅滞させる為の技術のクローズ化や、逆に普及スピードを高めるオープン化を上手く使い分けること。特許においても競合が侵食できない特許網を構築することが大切である。

◎**技術戦略**：事業化できる技術の創出とクローズ部分の競争力を重点に技術展開を行うことが重要である。

―これらの戦略の組合せを摺り合わせ（＝「戦略摺り合わせ」）で行い、戦略網の構築をすることで、ダントツの競争力をつけることが可能である。これらの効果はコンサルティングの現場で実証されている。

マネできないものづくり戦略網の考え方



①各戦略における「網」を構築し、②各戦略の網が互いに連結されて、競争力ある事業／商品をつくりだすこと

再び輝くために、今、「マネできない戦略」の実践を

「戦略摺り合わせ」としてシステムで戦う方法論（＝マネできないものづくり戦略）と良き戦略を創出するための英知の集結、これらを熱き情熱で推進することにより、必ず日本のものづくりは輝きを取り戻し、復権できると確信する。

日本のものづくり企業で是非進めていただきたいと願うところである。